

ロシア語の持ち主受動文について

On the Existence of the “Owner’s” Type Passive Sentences (Mochinusiukemi) in the Russian Language

ドレベトニャク・イリーナ*
(drevetnyak@hotmail.com)

This work is dedicated to the comparative analysis of the Passive Voice in the Russian and Japanese languages. The Passive Voice in the Japanese language was analyzed with the help of classification, given by Choo. It is common to divide passive sentences in the Japanese language into four groups, called in the work A type, B type, C type and D type sentences.

A type: Taroo ga Hanako ni nagurareta.

B type: Taroo ga Hanako ni asi wo fumareta.

C type: Taroo ga suri ni saiho wo surareta.

D type: Taroo ga tsuma ni sinareta.

In the work we tried to apply this classification to the Russian language. As the result, we pointed out the existence of not only A type passive sentences, which are common for many languages, but also B type sentences. C type and D type do not exist. However, the existence of B type passive sentences in the Russian language, in comparison with Japanese, is limited. In the work we pointed out the differences between B type sentences in the Russian and Japanese languages. As well, we defined circumstances, which influence on the existence of B type sentences and tried to explain them.

1. はじめに

日本語受動文の分類案は分類基準により、様々である。これまでの研究を整理した張(1997)では、以下の四つのタイプにまとめられている。それぞれA型、B型、C型、D型と呼ばれており、本稿でもそれにならって考察を進める。

A型：太郎が花子に殴られた。

B型：太郎が花子に足を踏まれた。

C型：太郎がスリにサイフをすられた。

D型：太郎が妻に死なれた。

この中で、通常ロシア語ではA型、いわゆる直接受動文だけがあると言われている。本稿

*新潟大学国際センター 平成16年度研究生 (県費留学生)

ではロシア語にもB型の受動文が存在することを示し、さらにB型の受動文が直接受動文の一つのバリエーションであることを述べる。また、B型の受動文の意味的、構文的な特徴も指摘する。

2. 張 (1997) の概要

これまでの日本語受動文の研究では、まとも、部分、所有、純粹な迷惑受け身の四分類 (森山, 1988)、当事者と関係者受動文の二分類 (工藤, 1990)、Direct passive、Indirect passiveの二分類 (柴谷, 1990)、まとも、持ち主、第三者受け身の三分類 (仁田, 1991) など、それぞれの分類基準によってその分類案は様々である。これらを踏まえ、張は以下のように受動文の分類案を提示した。

従来から、受動文は直接受け身と間接受け身に大きく二分されていたが、張はこれらを迷惑性の有無と求心性のバラエティを分類基準にして、新しい受動文分類案を提唱した。まず、幾つかの受動文例をあげて、それぞれをA型、B型、C型、D型と呼ぶ。

A型：太郎が花子に殴られた。

B型：太郎が花子に足を踏まれた。

C型：太郎がスリにサイフをすられた。

D型：太郎が妻に死なれた。

張は、形と意味の両方を考慮しなければならないのを認めながらも、より重要なのは意味の方だと考える。従来の研究では迷惑性をキーワードに、分類に差が生じている。迷惑性の存在は誰もが認めているが、迷惑の解釈がそれぞれ違っている。例えば、

- 寺村の分類では、A型は迷惑性がなく、B、C、D型は迷惑性がある。
- 森山、柴谷の分類では、A、B型は迷惑性がなく、C、D型は迷惑性がある。
- 工藤はD型のみ迷惑性を持っている。

とそれぞれ主張している。能動文に使われている動詞自体に迷惑の意味がなく、対応する受動文に迷惑の意味が現れる場合、その受動文には迷惑性があると張は考えている。つまり、A型からC型までの受動文には迷惑性がなく、迷惑性の有無によって受動文分類を行うとA、B、C型対D型という二分類になるというのである。

またもう一つの分類基準である求心性のバラエティというのは、受動文の文頭に来る主格が働きかけを直接に受けるのか、間接に受けるのか、或いは、働きかけでなく、影響を受けるのかというものである。この分類基準を基に、張はA型、B型対C型、D型という分類を提案している。言い換えれば、

- ① A、B型の場合は主格が直接的に働きかけを受ける、
- ② C型の主格は間接的に働きかけを受ける、
- ③ D型の場合は、働きかけでなく影響を受ける。

文の構造から見ると、B型とC型は同じ形を取っていると言える。しかし上のB型の例文の場合、「太郎」と「足」は切り離せないで、「足」でなく「太郎」が働きかけを直接に受

けていると考えられる。一方C型の場合は、持ち物が持ち主から切り離せるものであり、所有が変われば持ち物と持ち主の関係がなくなる。このことから持ち主は間接的に働きかけを受けていると言われている。この説を踏まえて、張はA型とB型が統合できると主張している。

それから、D型の特徴は主語が働きかけでなく、影響を受けるということである。加えて、このタイプの受動文は対応する能動文を持っていない。

上述をまとめて、意味という分類基準を優先し、迷惑性の有無と、求心性のパライエティという二つの意味によって分類提案を作成したのである。つまり「太郎が花子に足を踏まれた。」のように受動文の主語が、もとは対応する能動文のヲ格の一部として現れるタイプの文と、「太郎が花子に殴られた。」という受動文の両者を直接受動文というタイプに統合し、「太郎がスリにサイフをすられた。」のような受動文のタイプを持ち主受動文、「太郎が妻に死なれた。」のような文を間接受動文と呼んで、三分類としての代案を提唱したのである。

3. ロシア語の受動文とその特徴

3.1 B型の受動文とその特徴

「はじめに」で述べた通り、ロシア語にはA型の受動文はいうまでもないが、B型の受動文も存在している。しかし、C型とD型の受動文は存在しない。

ロシア語のB型の例文を以下に挙げる。本稿では(*)のある文は、非文ではないが通常使われることがないことを示す。

	ロシア語の文	日本語の訳
能動文	Таро ранил Дзировногу.	太郎が次郎の足を傷つけた。
受動文	Дзиро был ранен Таро в ногу. * Нога Дзиро была ранена Таро.	次郎が太郎に足を傷つけられた。 * 次郎の足が太郎に傷つけられた。
能動文	Таро похлопал по плечу Дзиро.	太郎は次郎の肩を叩いた。
受動文	Дзиро был похлопан по плечу Таро. * Плечо Дзиро было похлопано Таро.	次郎が太郎に肩を叩かれた。 * 次郎の肩が太郎に叩かれた。
能動文	Таро толкнул Дзиро в плечо.	太郎は次郎の肩を押した。
受動文	Дзиро был толкнут в плечо Таро. * Плечо Дзиро было толкнуто Таро.	次郎が太郎に肩を押された。 * 次郎の肩が太郎に押された。
能動文	Собака укусила Дзиро за ногу.	犬は次郎の足を噛んだ。
受動文	Дзиро был укушен собакой за ногу. * Нога Дзиро была укушена собакой.	次郎が犬に足を噛まれた。 * 次郎の足が犬に噛まれた。
能動文	Таро схватил за руку Дзиро.	太郎は次郎の手をつかんだ。
受動文	Дзиро был схвачен Таро за руку. * Рука Дзиро была схвачена Таро.	次郎が太郎に手をつかまれた。 * 次郎の手が太郎につかまれた。

能動文	Разыгравшийся ребенок схватил кошку за хвост.	遊んでいた子供は猫の尾をつかんだ。
受動文	Кошка была схвачена за хвост разыгравшимся ребенком. * Хвост кошки был схвачен разыгравшимся ребенком.	猫が遊んでいた子供に尾をつかまれた。 *猫の尾が遊んでいた子供につかまれた。
能動文	Охотник тяжело ранил птицу в крыло.	狩猟家は鳥の羽をひどく傷つけた。
受動文	Птица была тяжело ранена охотником в крыло. * Крыло птицы было тяжело ранено охотником.	鳥が狩猟家に羽をひどく傷つけられた。 *鳥の羽が狩猟家にひどく傷つけられた。

上に挙げたロシア語のB型の受動文は日本語の訳と大体同じ構造である。つまり、日本語からロシア語にほぼ直訳が可能なものである。

ここでは、能動文の目的語になっているのは、身体の一部を表す言葉だけである。目的語が身体の一部ではないと、B型の受動文にならないということである。一方、日本語の場合は、身体の一部でなくても身体の一部として扱うことができるものがある。例えば、日本語の「彼が先生に論文を褒められた」のような文はB型だと考えられる。だが、ロシア語ではこのような文は作れない。ロシア語でB型の受動文になるのは、対応する能動文の目的語が「足」「手」「肩」などのような言葉に限られ、日本語より狭いグループになると言える。

ロシア語のB型の受動文は、身体の一部が動詞の目的語になり、働きかけを受けている人（あるいは動物）が主語になるという構造である。直接働きかけを受けているのは身体の一部だが、「足」とか「肩」などが受動文の主語になることはない。だから、

- Нога Дзиро была ранена Таро.一次郎の足が太郎に傷つけられた。
- Плечо Дзиро было похлопано Таро.一次郎の肩が太郎に押された。

のような文は正しくない。人（動物）と身体の一部は切り離せないので、人（動物）が直接働きかけを受けていると思われる。これは日本語のB型の受動文との共通点である。ここで、人（動物）と身体の一部の関係は全体と部分というより抽象的な関係に置き換えることができる。例えば、身体とその一部だけでなく、物とその一部や他の同類の関係はどうなるだろうか。日本語の場合は、全体とその部分という関係があると、通常、「A（全体）がBにC（一部）をVされた。」という文は使われている。

例①：^{全体}車 の ^部タイヤ
あの車が犯人にタイヤを盗まれた。

例②：^{全体}彼 の ^部におい
彼が犬ににおいを嗅がれた。

①と②の例では、全体（車、彼）は受動文の主語になり、全体の一部（タイヤ、におい）

は動詞の目的語になるという構造だ。ロシア語では、こういう構造は出てこない。単なる部分というだけではなく、絶対切り離せないものでないとだめなのである。また、全体を現す語は人間あるいは動物でないと、やはり「AがBにCをVされた。」という構造を取れない。

3. 2 C型の受動文の検討

次に、C型の場合について検証する。

ロシア語でC型の例文を作ってみる。

	ロシア語	日本語の訳
能動文	Вор украл кошелёк Таро.	スリは太郎のサイフをすった。
受動文	* Таро был украден кошелёк вором. <u>Кошелёк Таро</u> был украден вором.	* 太郎がスリにサイフをすられた。 <u>太郎のサイフ</u> がスリにすられた。
能動文	Течение реки унесло нашу лодку.	川の流れば私たちのボートを流した。
受動文	* Мы были унесены лодку течением реки. <u>Наша лодка</u> была унесена течением реки.	* 私たちが川の流りにボートを流された。 <u>私たちのボート</u> が川の流りに流された。
能動文	Тайфун разрушил его дом.	台風は彼の家を壊した。
受動文	* Он был разрушен дом тайфуном. <u>Его дом</u> был разрушен тайфуном.	* 彼が台風にかを壊された。 <u>彼の家</u> が台風にか壊された。
能動文	Жена нашла его фотографии.	妻は彼の写真を見つけた。
受動文	* Он был найден фотографии женой. <u>Его фотографии</u> были найдены женой.	* 彼が妻に写真を見つけれられた。 <u>彼の写真</u> が妻に見つけれられた。
能動文	Друг потерял мою гитару.	友だちは私のギターをなくした。
受動文	* Я был потерян гитару другом. <u>Моя гитара</u> была потеряна другом.	* 私が友達にギターをなくされた。 <u>私のギター</u> が友達になくされた。

いわゆる持ち主受動文を作ってみたが、「太郎がスリにサイフをすられた。」のような構造はロシア語にはないということが明らかである。「Таро был украден кошелёк вором。」のような文は絶対に使われない。この場合は、持ち物が主語になり、「Кошелёк Таро был украден вором.—太郎のサイフがスリにすられた。」のような文になるということだ。言い換えれば、「AのモノがVされた。」のような構造になる。つまり、A型の構造〔AがBにVされた〕をもつのである。C型の受動文では、持ち物と持ち主の関係が不変ではなく、両者の関係は切り離しやすいので、ロシア語では日本語のようなC型の受動文は作れない。ロシア語では受動文に対応する能動文の目的語とその持ち主の関係が重視される。目的語が身体の一部だと、その持ち主との関係が強いと考えられる。B型の場合、持ち主だけを主語として取り出すことができ、身体の一部が誰のものかを示す表現は明示されない。

また、受動文から身体の一部を表す表現を削除しても、文の意味はほとんど変わらない。

例えば： 犬が次郎の足を噛んだ。 (能動文)

次郎が犬に足を噛まれた。 (受動文)

[=次郎が犬に噛まれた。]

*次郎の足が犬に噛まれた。 (ロシア語では通常、使わない受動文)

しかし、C型の受動文は作れない。

例えば： 友だちが私のギターをなくした。(能動文)

*私が友達にギターをなくされた。(ロシア語では文法的に正しくない受動文)

私のギターが友達になくされた。(受動文)

持ち主と持ち物を切り離してC型にすると両者の関係がわかりにくくなる。ロシア語ではこの関係を分かりやすく伝えるために、働きかけを受けているモノ(ギター)が誰のものであるかが分かるような表現でなければならないのである。

3.3 B型受動文の動詞の特徴

3.3.1 動詞の意味的な特徴

ここまでで、B型の受動文を調べて、ロシア語のB型の受動文は日本語より狭いグループになることが分かった。上述の通り、対応する能動文の動詞の目的語は身体の一部を表す表現に制限される。ロシア語では、対応する能動文の動詞の目的語が身体の一部でないと、B型の受動文に変えられない。しかし、B型の受動文の生成を制限する要素はこれだけではない。もう一つの要素は動詞の語彙的な意味である。本節では動詞の語彙的な意味について観察する。

B型の受動文に使われる動詞には一つの共通点が見られる。以下にその動詞を挙げる。

ロシア語	日本語の訳
ранить (в)	傷つける
бить/ударять (по)	殴る
кусать (за)	噛む
трогать/брать (за)	触る
толкать (в)	押す
бить/стучать/хлопать (по)	叩く
хватать (за)	つかむ
дёргать/тянуть (за)	引っ張る
брать/взять (за)	触れる

これらの動詞はすべて、「傷つける」や「直接身体に触る」という意味を持っている。これらとは全く異なる意味を持つ動詞を使って、B型の受動文を作ってみると、以下の表に見られるように文法的に正しくない文が生成される。

ロシア語の持ち主受動文について

	ロシア語	日本語の訳
能動文	Знаменитый художник запечатлил её лицо.	有名な画家は彼女の顔を描いた。
受動文	Её лицо было запечатлено знаменитым художником. * Она была запечатлена лицо знаменитым художником.	彼女の顔が有名な画家に描かれた。 *彼女が有名な画家に顔を描かれた。
能動文	Врач осмотрел больные уши ребенка.	医者は子どもの痛い耳を診た。
受動文	Больные уши ребенка были осмотрены врачом. * Ребёнок был осмотрен врачом больные уши.	子どもの痛い耳が医者に診られた。 *子どもが医者に痛い耳を診られた。
能動文	Полицейский снял его отпечатки пальцев.	警官が彼の指紋をとった。
受動文	Его отпечатки пальцев были сняты полицейским. * Он был снят отпечатки пальцев полицейским.	彼の指紋が警官にとられた。 *彼が警官に指紋をとられた。

例えば、Её лицо было запечатлено знаменитым художником. という文に使われている動詞は「描く」という意味であり、「傷つける」や「身体に触る」という含意はない。だから、受動文はB型ではなく、A型として生成され、「彼女の顔が有名な画家に描かれた。」という文になり、「彼女が有名な画家に顔を描かれた。」という文は成立しない。

ロシア語のB型の受動文は、対応する能動文の動詞が「身体に触る」或いは、「身体を傷つける」という語彙的な意味を持つ動詞に限られるといえる。

3. 3. 2 動詞と名詞の関係について

B型の受動文の生成に影響を与える要素はもう一つ考えられる。この要素は統語法に基づいている。ロシア語の統語法を詳しく説明する余裕はここではないので、簡単に現象を説明する。

まず、動詞と名詞の関係について述べる。ロシア語には、動詞と名詞の関係が二種類ある。

一つは、動詞を名詞と繋ぐために助詞（前置詞）が使われる関係である。ここでは、このような関係を有助詞関係と呼んでおく。

例：взять за руку（手を取る）

「взять」は動詞で、「руку」は名詞である。動詞と名詞は「за」という助詞で接続している。もう一つは、助詞なしに、動詞と名詞を直接接続する関係である。この関係を無助詞関係と呼んでおく。

例：взять руку（手を取る）

「взять」は動詞で、「руку」は名詞である。上の例と同じ動詞と名詞だが、助詞が使われていない。この場合は、無/有助詞関係であっても、意味が変わらない。しかし、ここでは大事なポイントがある。動詞と一緒に使われる助詞はさまざまであり、その助詞の意味も違っている。助詞の中には、動詞の意味を変えない助詞と動詞の意味を完全に変える助詞もある。

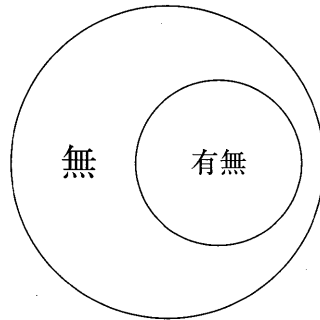
例① взять руку（手を取る） = взять за руку（手を取る）

例② взять под руку 一腕を組む、腕を支える

взять в руку 一手に取る

例①では、「за」という助詞は動詞の意味に影響を与えない。しかし、例②の「в」や「под」のような助詞を使うと、動詞の意味が変わる。B型の生成に影響を与える助詞は例①のタイプで、動詞の意味を変えない助詞である。

ロシア語のすべての動詞を、助詞関係を基にグループ分けをすると、以下の図の通り無助詞関係しかない動詞と無助詞有助詞関係を両方持つ動詞に分けられる。



B型の受動文に使える動詞は無助詞関係と有助詞関係（ただし、助詞が動詞の意味を変えない場合）を両方持つ動詞でなければならないということである。

なぜこの助詞関係はB型の受動文の生成に影響を与えるのか？ ロシア語のB型の受動文の構造は次の通りだ。

主語（名詞） + 動詞 + 動作主（名詞） + 助詞 + 目的語（名詞）

主語(名詞) 動 詞 動作主(名詞) 助詞 目的語(名詞)
Он был ранен врагом в ногу.

=彼は敵に足を傷つけられた。

上述の通り、このタイプの受動文には動詞と動詞の目的語の関係が必ず助詞で示されている。要するに、B型の受動文を作るためには助詞が必要である。したがって、もともと動詞とその目的語の関係は無・有助詞関係のタイプでないと、B型の受動文の生成は不可能である。

ロシア語の場合は、B型の受動文を生成するために、上述の三つの要素が必ず必要だ。一つか二つしかない、B型の文は生成できない。例えば、日本語の「太郎が次郎に手を切ら

れた」はB型の受動文である。「切る」という動詞は明らかに「傷つける」という意味を持っている。さらに、「手」は確かに身体の一部である。しかし、ロシア語では、このようなB型の受動文を作ってみると、正しくない文が出てくる。なぜならば、ここで挙げた三つ目の要素が足りないからである。つまり、「切る」という動詞はロシア語では無助詞関係だけを持つ動詞であり、B型の受動文は作れないというわけだ。

4. まとめ

ロシア語の受動文にはA型が存在するだけでなく、B型も一部存在している。しかし、C型の受動文はB型と同じ構造を持つにもかかわらず、存在しない。それは、B型の受動文とC型の受動文の意味が違っているからである。B型の場合は、主語が直接働きかけを受けているのに対し、C型の場合、主語は持ち物を通して間接的に働きかけを受けているにすぎない。つまり、ロシア語には、直接受動文しか存在しないのである。言い換えると、B型の受動文は直接受動文の一タイプであり、A型のバリエーションだと言える。これは最初に述べた日本語についての張の主張と一致している。そして、ロシア語でB型の受動文を生成するには以下の三つの要素が不可欠である。

- 一つ目は、受動文の動詞の目的語の意味的な要素である。動詞の目的語が身体の一部でないと、B型の受動文は生成できない。
- 二つ目は、受動文の動詞の意味的な要素である。動詞は、「傷つける」や「身体に触る」という意味を持たなければならない。
- 三つ目は、構文的な特徴である。B型の受動文を生成できる動詞は無助詞関係と有助詞関係を両方持つものでなければならない。

5. 終わりに

最後に述べた構文的な特徴は統語法に関係があり、ロシア語の研究者にまだ詳しく調べられていない現象である。外国語としてロシア語を習得する際には大事なことなので、よりよいロシア語学習方法の確立のためにも、この分野での研究を続けていきたいと思う。また、ロシア語の教科書では通常、A型の受動文しか扱っていないので、ロシア語を習得しようとする外国人はB型の一部の存在を考慮したほうがいい。初級のレベルでこのような特徴を知る必要はないと思うが、上級のレベルになると、当然必要な知識である。また逆にロシアの日本語を学ぶ学習者にとっても、両言語にB型受動文が存在することを知り、その生成に関する制限の違いを学ぶことは非常に有益だと思う。

最後になるが、本稿作成にあたって草稿段階で口頭発表する機会を下さり、またその場で様々な有益なご指摘をいただいた新潟大学言語研究会の皆様がこの場を借りてお礼申し上げます。

参考文献：

- 工藤真由美（1990）「現代日本語の受動文」『ことばの科学・4』むぎ書房
森山卓郎（2003）「ここからはじまる日本語文法」ひつじ出版
森山卓郎（1988）「日本語動詞述語文の研究」明治書院
仁田義雄（1991）「ボイス的表現と自己制御性」仁田義雄『日本語のボイスと他動性』くろしお出版
野田尚史（1991）「はじめての人の日本語文法」くろしお出版
高橋太郎（1977）「たちばのとらえかたについて」『教育国語』51号、むぎ書房
寺村秀夫（1982）「日本のシンタクスと意味Ⅰ」くろしお出版
Shibatani, M. (1990) The Languages of Japan, Cambridge University Press.
鈴木重幸（1972）「日本語の文法・形態論」むぎ書房
鈴木重幸（1980）「動詞の「たちば」をめぐる」『教育国語』60号、むぎ書房
張 麟声（1997）「受動文の分類について」『現代日本語研究』4号、大阪大学現代日本語学講座